

第1回 ひきこもり支援に関する関係府省横断会議 議事概要

日時：令和3年6月29日(火) 10:30～11:35

場所：イイノホール&カンファレンスセンター RoomE (一部オンライン)

出席者：

主査

厚生労働大臣政務官 こやり 隆史

構成員 [] は代理出席者

内閣官房孤独・孤立対策担当室長	谷内 繁
内閣府政策統括官(政策調整担当)	三上 明輝
消費者庁次長	高田 潔
[消費者庁審議官	坂田 進]
文部科学省初等中等教育局長	瀧本 寛
厚生労働省社会・援護局長	橋本 泰宏
厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部長	赤澤 公省
厚生労働省人材開発統括官	小林 洋司
農林水産省農村振興局長	牧元 幸司
経済産業省商務・サービス審議官	畠山 陽二郎

(議事次第)

1. 開会
2. 議事
 - (1) ひきこもり支援に関する関係府省横断会議の開催について
 - (2) ひきこもり支援に関する各府省の取組について
3. 閉会

(配付資料)

- 資料1 ひきこもり支援に関する関係府省横断会議の開催について
資料2 ひきこもり支援に関する各府省の取組について

(参考資料)

参考資料 ひきこもり支援に関する関係府省横断会議構成員名簿

(議事概要)

(1) こやり厚生労働大臣政務官からの挨拶

- ひきこもりについては、平成 31 年 3 月に中高年のひきこもりの実態調査結果が公表され、また、8050 世帯の存在が広く認知されたことなどにより、社会的な関心が急速に高まり、行政による支援の充実が強く求められている。
- 与党、自民党においても、昨年 12 月から「いわゆる『ひきこもり』の社会参画を考える PT」が立ち上がり、その提言は菅総理をはじめ、関係大臣に手交されたところである。
- 特に総理からは、坂本孤独・孤立対策担当大臣に対して、ひきこもり支援についても孤独・孤立対策の中でしっかりと対応するよう、ご指示があったところである。
- これを受けて、先月末に開催された「孤独・孤立対策に関する連絡調整会議」において、坂本大臣から、厚生労働省を中心に関係省庁で議論を進め、連絡調整会議へ報告するよう要請されたため、皆さんのご参集をお願いしたところである。
- 今月 18 日に閣議決定された骨太の方針では、ひきこもり支援について推進していく旨が盛り込まれたところであり、こうした政策の実現に向けて、皆さんには活発な議論をお願いしたい。

(2) ひきこもり支援に関する関係府省横断会議の開催について

資料 1 について厚生労働省社会・援護局長から説明。

- 本会議は、ひきこもり状態にある方やそのご家族への支援に当たって、多様な選択肢を用意することが重要であるとの認識の下、各自治体において官民を問わない様々な社会資源がより多く参画・連携できる環境を整備するということを目的として、こやり厚生労働大臣政務官が主査となり、関係府省の局長級を構成員として招集する形で開催することを申し合わせとしたい。
- 本会議の議事は非公開とした上で、会議終了後に、厚生労働省において議事概要を作成し、必要に応じて関係府省の確認を得た上で、公開としたい。
- 本会議の配付資料については、特に非公開としたもの以外は公開としたい。
(各府省異議なし)

(3) ひきこもり支援に関する各府省の取組について

資料 2 について各府省から説明。

(4) こやり厚生労働大臣政務官からのコメント

- 本日説明のあった各種施策をいかに横断的に活用していくかということが極めて重要であると改めて認識した。
- 各府省の連携だけではなく、各地域の自治体において、それぞれの施策をいかに連携させていくかが大事である。
- 厚生労働省だけでも様々な政策と資源があり、これらをどう連携させていくかということが、地域の方向性を決めていくことにもなる。これに各府省の施策を絡ませた、効果的な支援体制について検討していきたい。
- 消費者庁においてはすでに相談体制を構築しているが、各府省の支援窓口と連携した重層的な支援体制を構築していきたい。
- 文部科学省においては不登校支援が実施されているが、各府省が行うひきこもり支援と切れ目なく連続させた支援に向けて、連携策を検討していきたい。
- 農林水産省及び経済産業省からは、社会にとっても本人にとっても望ましい成功事例の紹介があり、そのような事例を幅広く届けていくための方策について検討していきたい。
- いずれにしても、ホームランとなるような施策があるものではないので、効果的な支援体制を地道に作っていくことが大事であり、各府省には協力をお願いしたい。

(了)